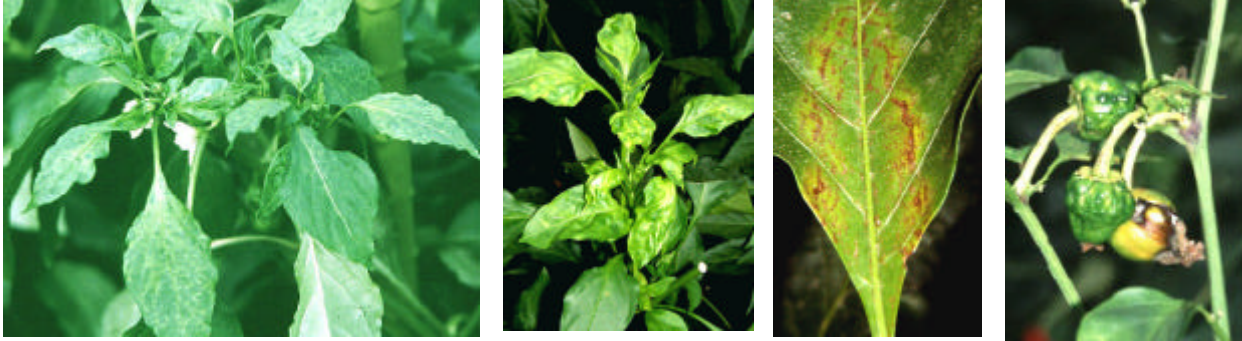


病徴によるピーマンウイルス病の見分け方

本県でピーマンに被害をもたらす主なウイルスは、以下のような病徴を示す。

- ・キュウリモザイクウイルス(CMV): 明瞭なモザイク、葉や果実の奇形
- ・ペッパーマイルドモットルウイルス(PMMoV): 葉や果実に淡いモザイクと凹凸
- ・トマト黄化えそウイルス(TSWV): 葉や果実にえそ症状

CMVの特徴



軽度の葉のモザイク

重度の葉のモザイク

葉のえそ

果実の奇形

本県では以前から広く発生が見られ、葉に凹凸や葉脈に沿った明瞭なモザイクを生じる。激しい場合葉がちぢれ、株全体がわい化する。また、葉や茎の先端部に激しいえそを生じ、果実は小さく、奇形や凹凸を伴う。

PMMoV (TMV - トウガラシ系)の特徴



軽度の葉のモザイク

重度の葉のモザイク

果実のモザイク

長年ピーマンを作付けしている雨よけハウスで発生が多く、CMVに比べ被害が軽微だが全株発病していることが多い。若い葉に淡黄色の斑紋が現れ、新葉は凹凸を生じ椀状にそる。大きくなった葉ではモザイクは不鮮明になる。程度がひどく樹勢が弱った場合、果実にもしばしば黄色の斑紋や条斑が現れ、凹凸を伴う奇形を呈する。CMVによるモザイク症状に類似するが、葉のちぢやえそ症状が現れることはない。

TSWVの特徴



葉のえそ症状

成長点の枯死

果実えそ

本県では、平成9年にピーマンで初めて発生が確認され、現在県中南部と宮古地域において発生が確認されている。若い葉が凹凸を生じ、汚れたような黄色がやがて暗黄色～褐色のえそ症状を呈する。やがて成長点から枯死する。また果実は、軽いモザイクや奇形を呈し、果面や果梗に不規則な褐色～黒色のえそ斑を生じる。

品種や栽培環境、感染時期によって病徴はしばしば異なるので、血清反応による検定と組み合わせた形で診断を実施する。

事業名：病害虫発生予察事業